

ユニット名	島根大学能楽部
代表者	宮崎 藍衣
所属人数	15名
達成に資するSDGs目標	目標4「質の高い教育をみんなに」 目標11「住み続けられるまちづくりを」 目標12「つくる責任 つかう責任」 目標16「平和と公正をすべての人に」
活動概要	島根大学能楽部では、700年以上の歴史をもつ古典芸能「能楽」の仕舞および謡を稽古し、その成果を島根県内外の舞台で発表しています。毎週行われる学生および教員のみの稽古に加え、月に1～2回、対面またはオンラインでプロの能楽師による直接指導を受け、技術の習得のみならず、能楽の歴史や系譜についての理解も深めています。 発表・イベントの機会としては、4月に地域の高齢者とプロの能楽師を学内に招き能楽体験イベントを開催しました。 5月には松江喜多会春季大会がサンラボーむらくもで開催され出場しました。 6月には全国宝生流学生能楽連盟大会が石川県の金沢能楽堂で開催され出場しました。 9月には崇寶会が滋賀県の彦根城能舞台で開催され出場の予定です。 10月には松江邦楽連盟の舞台が島根県民会館で、菅田ふれあい祭りが菅田会館で開催され、出場予定です。 12月には松江喜多会秋季大会に併せてプロの能楽師を招き小泉セツに関した一般向けイベントをサンラボーむらくもで開催し、出場予定です。また、島根大学教育学部附属義務教育学校で開催する能楽教室に協力出演する予定です。
主な連携先 (予定を含む)	松江喜多会、松江宝生会、全国宝生流学生能楽連盟、大島会、崇寶会、宝珠会、小泉八雲記念館、松江邦楽連盟、菅田謡会、松江市立菅田会館
成果物の公表予定、 社会への波及効果	伝統文化・伝統芸能の教育は、2008年に告示された学習指導要領の改訂により明文化され、国を挙げて取り組むべき重要課題として位置づけられています。本学の能楽部も、日々の活動を通じて伝統芸能に触れることで郷土への愛着を育み、世代を超えた学びの機会や多様な教育の選択肢を若い世代に提供する役割を果たしています。また能楽部部員が学ぶのみならず、教育学部附属学校で中学生対象の能楽教室に協力出演することも決まっており、大学生自身がさらに若い世代へと伝統文化を継承する役割をも担っています(目標4)。 また、地域での能楽発表は、地域文化の継承と活性化に貢献するとともに、能楽が歴史上の偉人たちにも愛された文化芸術であることから、まちの魅力づくりや観光資源としての価値を持ちます(目標11)。特に、今年10月より放映されるNHK連続テレビ小説『ばけげ』は、小泉八雲の妻セツをモデルとしたドラマであるということから、現在セツに関心が集まっています。セツが晩年に愛し生きがいにしていた趣味が能楽であったことにちなみ、松江の能楽愛好者団体松江喜多会が、小泉八雲記念館との共催で能楽イベントの開催を12月に予定していますが、本イベントの企画運営および実施にあたり、島根大学能楽部は中心的役割を果たす予定です。 さらに、能楽は衣装や道具、舞台装置を何世代にもわたって丁寧に使い続ける文化を持ち、サステナビリティの精神が根付いています(目標12)。私たちが9月に出演予定の彦根城能舞台も、200年以上前に建築された江戸時代の建造物であり、現在も現役で使用されています。このような歴史的資産と日常的に関わることで、無駄を省き、必要なものを丁寧に扱う意識を自然と身につけることができます。 また、能楽は仏教的な平和思想と深く結びついており、たとえ「平家物語」など暴力的な題材を扱う演目でも、主人公である幽霊の語りを通じて暴力の虚しさや功德の大切さを伝える構成が多く、平和教育の観点からも意義のある芸術です(目標16)。 加えて、ユネスコ無形文化遺産である能楽は「日本独自の文化」として国際交流の場でも高い紹介価値を持ちます。学生時代に能楽に打ち込んだ経験は、将来的な国際的活躍の基盤となると考えられます。また、お稽古に必要なものは足袋と扇のみであるため、留学生にとっても始めやすく、帰国後も継続しやすいという利点があります。過去には日本文学を学ぶ留学生が部員として活動していた実績もあります。 これらの点から、能楽部の活動そのものが島根大学の国際交流機能の強化にも寄与しているといえます。
成果物の公表予定、 社会への波及効果	この一年、島根大学能楽部はSDGs認定ユニットとして、能楽という日本の誇る伝統文化の存続のため活動に励んだ。 9月に彦根城の能舞台で行われた全国宝生流学生能楽連盟による自演会では、全国から能楽部所属の学生が集まる中、島根大学能楽部も参加し他の大学の学生と交流を深めた。他大学の方の舞台を鑑賞する中で、同じ仕舞を舞った際に生じる舞い方の違いや謡の拍子や音程の細かな違いに着目し、どうしてそのように演じたのか考察を深めることで、感情の受け取り方・表現の仕方において新たな観点を獲得することができた実りのある会となった。 また、島根大学能楽部は他大学の学生に留まらず、同じ島根大学に所属しながら能楽部に所属していない学生にも興味を持ってもらうことができています。12月に行われた松江喜多会主催、小泉八雲記念館の共催の元行われた喜多会の舞台「小泉セツの愛した能楽 謡とお囃子の世界」では島根大学能楽部のメンバーの他に、能楽部に所属していない大学生も能楽を鑑賞する様子が見られた。日本各地の様々な場所・逸話には能楽が関わっているものも少なくない。能楽部への所属の有無を問わず、能楽が学生の観察眼・考察力を高め、視野を広げて教養を身に付ける足掛かりとなっているこの状況を作り出したことは、まさにSDGsの4の目標「質の高い教育をみんなに」の達成に寄与したと言える。 そして、前述した12月の喜多会では能舞台への出演・鑑賞だけでなく、小泉八雲の妻、小泉セツが習っていたとされる謡と小鼓にちなんだ体験ワークショップも開催された。NHK連続テレビ小説「ばけげ」の放送も相まって、松江の観光地としての魅力は高まり多くの観光客が松江へ訪れている。地元の方もそれに負けない盛り上がりを見せ、体験ワークショップには多くの地域住民が参加した。島根大学能楽部のメンバーも参加させていただき、地域の方々と一緒に能楽への造詣を深めた。大学生から高齢の方まで、世代を越えて交流を深める機会ができたということには大きな意味がある。SDGsの11の目標「住み続けられるまちづくりを」の達成には、地域住民同士のつながりが欠かせない。能楽を共通の話題として、地域住民と交流することは地域の活性化、住み続けられる温かいまちへの第一歩となるだろう。しかし、能楽は大学生が個人で始めようとする習い事としては些か敷居が高い。島根大学能楽部は、大学生が能楽を通して地域との関わりを持つことを手助けして、「つながりのあるこの場所だったら住み続けても良い」と思えるような活動をこれからも行っていく所存である。